



YOSHIMOTO

吉本興業・アンカンミンカンが協力

漫才で仲間と笑顔つなぐ

特集 昭和中学校で教育漫才ワークショップ開催

新たな学校生活が始まった昭和中学校の1年生を対象とした教育漫才ワークショップが開かれました。生徒たちは、人間関係を円滑にする笑いを探求する「漫才」を通じて、仲間とのコミュニケーションやプレゼンテーション能力などを磨きました。

笑顔になる漫才を考える

昭和中学校(秋元秀文校長)で開かれた教育漫才ワークショップは、昨年8月に村と包括連携協定を結んだ吉本興業ホールディングス(大阪市)との目玉事業の一つ。生徒たちは、これからの時代を生き抜く力を養うことを目的とした教育漫才に取り組みました。参加したのは新1年生52人で、講師を務めたのは、吉本興業所属のアンカンミンカン。初日となった4月28日は、まず漫才の仕組みを学びました。生徒たちは、笑顔になる漫才をするためにできること、やらないほうがいいことなど、活発な意見を出し合いました。

学校生活を笑いに変えて

2日目となる5月10日は、生徒が2人ずつのコンビに分かれ、いよいよ漫才の披露です。生徒たちは順に、学校生活で頑張りたいことなどを挙げていき、最後にボケて笑いを取る漫才に挑戦。テストで0点を取ってみたい「勉強を毎日30時間頑張る」などのボケにテンポよく突っ込みが入ると、笑い声や拍手が沸いています。発表を終えた綿貫蓮君と綿貫花穂さんのコンビは「自己紹介でみんなが笑ってくれて緊張が解けました。本番ではアドリブも入れることができ1番よくできました」と手応えを感じていました。



- 1 10 アドリブを入れテンポよく漫才を披露
- 2 披露された漫才に拍手喝采
- 3 音楽に合わせて登場、相方は先生
- 4 11 真剣にネタ作り
- 5 小野教育長からはねぎらいの言葉が
- 6 身振り手振りでネタを披露
- 7 漫才のお手本を見せるアンカンミンカン
- 8 12 ネタを見る表情は真剣そのもの
- 9 漫才をするコンビを発表
- 13 みごとと最優秀賞に輝いた高橋君・竹之内さんのコンビ
- 14 充実感とともに締めくくられたワークショップ



笑いの可能性と得られた成果は想定以上!

生徒たちが互いにコンビを組み、自分たちでルールを決めてワークショップに臨みました。みんなが前向きに漫才に取り組む中で、それぞれ個性が出て面白く、笑いの可能性を感じるとともに当初の想定以上の成果が得られました。

アンカンミンカン | 吉本興業所属。川島大輔さん(左)と富所哲平さんによるお笑いコンビで、よしもと群馬県住みます芸人。